

てとり

vol. **23**
2025.10

 多文化共生にむけて 



特集

4 多文化共生にむけて

東部

多文化共生
ネットワーク
in プラザ



中部

Toriフレンド
network
倉吉日本語教室



西部

境港市



高校生ing

10 田後を「知りたい!」 田後を「知ってほしい!」



鳥取県立岩美高等学校「TAJIRI倶楽部」

当センターは、「ミラ・クル・とっとり運動」を
推進しています!

「ミラ・クル・とっとり運動」とは、県内の活動者が互いにつながりあい、それぞれの活動の活性化と地域課題解決の推進を目指す運動です。運動に参画する個人・団体同士がフラットに、ゆるやかにつながるネットワークとして、「ミラ・クル・とっとりプラットフォーム」を展開しています。



ミラ・クル・とっとり運動

県内に住んでいる外国人が 住み続けたい・働き続けたい まちづくり

日本の外国人人口は増加を続けており、総人口に占める割合が過去最高を更新し続けています。外国人比率の増加は労働力不足の解消などの経済的なメリットと、地域住民としての受け入れ環境の整備といった社会的な課題をもたらす2つの側面があります。

県内に住んでいる外国人のサポートを行っている公益財団法人鳥取県国際交流財団の蓼本宏一さんとグエン・ギさんに、県内の傾向と多文化共生における取り組みについてお話を伺いました。



公益財団法人
鳥取県国際交流財団

多文化共生コーディネーター
グエン・ギさん

公益財団法人
鳥取県国際交流財団

GM(総括マネージャー)
蓼本 宏一さん





県内外国人住民の傾向

蓼本 県内外国人住民数は年々増えており、令和6年12月末で6,000人になりました。国籍別に見るとベトナムが約1,500人と最も多く、対前年伸び率で見るとミャンマーが顕著に増えています。また、近年は技能実習や特定技能、留学の在留資格が増えています。

グエン 外国人住民数の増加に伴い、在留資格やマイナンバーカードの更新手続きが複雑で困っているという相談も増えています。

また、通訳ボランティアを派遣していますが、国籍の多様化によって多言語化が進むと対応できるか心配しています。

外国人住民へのサポート

蓼本 当財団は鳥取県東部・中部・西部にそれぞれ事務所を構え外国人住民のサポートを行っています。

主な取り組みとしては外国人相談窓口を設置し、日常生活のお困りごとから、専門的な相談まで対応しています。また、通訳ボランティア制度を運用し、病院での診察等に同行する医療通訳や学校での懇談等に同行するコミュニティ通訳に対応しています。ボランティアとして活動可能な方々に登録いただ

き、様々な言語に対応することが出来ています。そして、生活に必要な日本語を学ぶための日本語教室をオンラインと対面で運営しています。これら3つを柱として取り組んでいます。他にも防災研修や外国人住民に寄り添い活動されている多文化共生サポーターを始めとする担い手の皆様と連携・協働した取り組み等も行っています。

グエン 防災研修を行うにあたり、*やさしい日本語とイラストを使った「防災かるた」を作成しました。かるたを通して防災の基本的な知識を楽しく学ぶことが出来ます。

*やさしい日本語：難しい言葉を使い換えるなど、相手に配慮した分かりやすい日本語



今後の展望

蓼本 国や県、市町村、支援者・団体等、担い手同士のつながりをさらに広げていきたいです。多文化共生の言葉の中にある「多」という字は「たくさん」を意味しています。

今後も研修会や交流会等を企画する時は、「たくさん」の担い手を巻き込み、当日は参加者も運営者も全員で楽しく学ぶことを大切にしていきたいです。そして、「たくさん」の担い手の皆様とつながり一緒に取り組みを積み重ね、鳥取県だからこそその多文化共生の土台を創っていきたいです。

グエン 令和6年12月末で75の国と地域の外国人が生活する鳥取県は、すでに多文化社会になっています。しかし、「違いを受け入れる多文化社会」から、「違いを楽しむ多文化共生社会」を目指し行動する必要がありますと考えています。言葉や習慣の違いを隠すのではなく楽しんでもらえたら嬉しいです。

また、鳥取の方言など違いを知ることもし楽しいです。これからは、日本人も外国人もお互いに心を開くことで、より楽しい鳥取県になればと願っています。



公益財団法人 鳥取県国際交流財団

<https://www.torisakyu.or.jp/ja/>



Webサイト

本所(東部)

鳥取市扇町21 県民ふれあい会館3階
メール: tict@torisakyu.or.jp

電話:0857-51-1165

倉吉事務所(中部)

倉吉市東蔵城町2 鳥取県中部総合事務所別館
メール: tick@torisakyu.or.jp

電話:0858-23-5931

米子事務所(西部)

米子市末広町294 米子コンベンションセンター4階
メール: ticy@torisakyu.or.jp

電話:0859-34-5931



多文化共生を目指し、幅広く輪を広げてゆく。

【東部】多文化共生ネットワーク in プラザ(鳥取市)

外国人を対象にした支援や交流を図る団体といっても、それは対象の国・分野や内容によって細かく分かれて存在している。鳥取県内でも多くの団体がそれぞれの目的や役割のもとに活動をしているが、外国人の暮らしを支える仲間としてつながりを持つと2021年に誕生したのが多文化共生ネットワークinプラザ(鳥取市)。お互いの得意なことや特徴を活かしながら、連携し多文化共生社会の実現を目指している。

先駆的な国際交流の拠点

「ここは、市が28年前に国際交流の推進を目指して設置されたのですが、当時としたら地方自治体としては先駆的なことでした。これまで地域の人や外国人がたくさん使ってきた場所なんです」

多文化共生ネットワークinプラザの大田事務局長が話すのは鳥取市国際交流プラザ。もともと鳥取市は1990年の清州市(韓国)と、2001年にはハナウ市(ドイツ)と姉妹都市提携をするなど国際交流が盛んで、鳥取大学の留学生や先生も多い湖山地区にプラザが建てられた。外国人が鳥取で暮らす上

で、助けになる多くの役割を担ってきたこのプラザで、さらに活動を広げていこうと活動団体による多文化共生ネットワークinプラザが2021年に生まれた。「本当に念願でした」と話すのは代表を務める川口斐斐さんだ。

「私もこのプラザで働いていたんです。ここは、外国人が業務用オープンを使って料理したり、卓球台があるから遊びに来たり、バザーをして生活必需品を手に入れたり、とてもありがたい場所でした。でも、その当時は横のつながりはそこまでなくて、そういうネットワークがあればいいなと思い続けてきました。このネットワークが立ち上がった当時の国際交流プラザ所長を務めた大田さんが取りまとめをしてくれ、ようやくそれが叶いました」



フェイフェイ
川口 斐斐 代表





▼緩やかなつながりを持つこと

川口斐斐さんは台湾出身。留学で来日し、結婚を機に鳥取にやってきて30年。今は、鳥取県唯一の多文化共生マネージャーであるとともに、Sun-in台湾人会の会長も務め、台湾から山陰に来た人たちのさまざまな支援をしている。異国で暮らすことの大変さを知っているだけに、分野が違う団体同士が手を取り合うことで良い効果があると思ってきたという。

「一本なら折れるかもしれない箸も10本なら折れない。それぞれの得意なことで力を合わせたら、もっとたくさんできることができますから」(川口さん)

多文化共生ネットワークinプラザには、現在、13団体が会員登録。国際交流を積極的に進める団体や、在住外国人を支援する団体もあれば、鳥取大学の学生たちの団体、行政書士による相談を行う団体など、分野が違う団体が集まった。立ち上げ以降、コロナ禍もありなかなか活動ができなかったが、本年1月には、初めてのイベントとなる「ワールド・スマイル・ピレージ」を鳥取砂丘コナン空港で開くと300人が来場。飲食や文化体験などを通して盛り上がった

という。

「外国人同士の交流を目指して開いてみたのですが、想像以上の来場者で驚きました。それぞれの団体のカラーが混ざり合う交流の場になり、改めて県内にこれだけのネットワークがあるんだと分かりました」(川口さん)

▼社会全体の意識を変える

同ネットワークができたことで、新たな動きも生まれている。今年に入って、広島出入国在留管理局と中四国地方で初めてとなる連携協定を結んだ。

「行政だけでなく、日々、外国人と近くにおいてつながりを持っている民間団体という点に魅力を感じてもらえたようです。民間での緩やかなネットワークというのはなかなかないんですね」(大田さん)



それにネットワークを作ったことで、仲間意識だけでなく、情報共有もできる。例えば課題

になっているのが、思いを持ってそれぞれの団体を立ち上げた世代の高齢化。若い人たちが入ってきてもらうためにも、合同のイベントを増やして注目度をあげる必要がある。

「自分たちだけでも、行政だけでなくもなく、みんなで作っていかないと多文化共生はできないと思うんです。例えば、経済団体でも青年部とか若い人たちなど、幅広い分野の人たちに国際交流や多文化共生の意識を持ってもらうことがこれから大切になると思っています」(大田さん)

そのための一歩が、このネットワークの設立。まずは緩やかにつながることを大切にしていきたいながら、その輪を少しずつ社会に広げていく。



大田 斉之 事務局長

多文化共生ネットワーク in プラザ

所在地 / 鳥取市湖山町西1丁目512
[鳥取市国際交流プラザ2階]
連絡先 / 電話: 0857-30-6020
FAX: 0857-30-1470
メール: info@cocreate.llc
[担当者] 事務局 大田斉之



官民連携で強みを生かし、 国を超えて人と人がつながる場所。

【中部】Toriフレンドnetwork 倉吉日本語教室

知らない土地で暮らすには、やはり人とのつながりは欠かせないものだろう。倉吉市人権文化センターで開かれていた日本語教室は、語学の勉強だけでなく困りごとの対応が行政に伝えやすいなど、官民連携の強みを生かしている。暮らす上でそれぞれのレベルや目的に応じた日本語の上達を目指しながら、お互いを知ってつながることにも重きを置く。外国人にとってもゆるやかで安心できるコミュニティーになっている。

▼行政と民間が手を組んで

「こんにちは」。水曜日の午後7時。倉吉市人権文化センターの一室に、続々と外国人が集まってくる。

「この教室は、2014年に倉吉市の人権政策課が開設し、運営を民間の私たちが請け負っているんです。行政と民間が手を組んだ教室というのは県内でもここだけだと思います。現在も30人が登録して利用してくれています」

そう話すのは、運営を担う「Toriフレンドnetwork」の田村昭夫事務局長。同団体は、20数年前から外国人が暮らしやすいような支援を続けてい

る。教室では、人権文化センターの職員やボランティア、もともとと教員だった田村さんの教員仲間などたくさんの方が日本語を教えている。

「行政と民間が一緒にやることで、『こんなことで困っている人がいる』と行政にかけ合いやすく、逆に、行政から『教室に通いたい人がいる』と声がかかることもある。保育園に通わせる時の困りごとはこども支援課につなぐとか、早く対応できるのは利点だと思います」と、人権文化センターの下吉真二所長。スムーズな連携は大きな強みになっている。

▼生きるために必要なこと

利用者も、時代の変化とともに変わってきているという。

「以前は、鳥取に嫁いできて日本語の読み書きができない子育て世代が多かったのですが、ここ最近では高校のALT（外国語指導助手）の先生が日本語を上達したいときてくれたりだとか、若い人たちも増えています」（田村さん）

教室ではマンツーマンでの指導を基本にしている。それぞれの日本語習得のレベルや生活状況も違うため、日本語検定の勉





強から運転免許の資格を取るための学科試験の勉強まで、目的もさまざま。定期的に通わなくても1日からでも利用を受け付けている。

「言葉を獲得するということは、生きることに直結しますから。その人ごとに暮らしの中で何を求めているか、そこに内容やレベルを合わせることを大事にしています。言葉を覚えれば隣近所で知り合いを作りやすくなる。暮らすってそういうところからだと思います」(田村さん)

20数年前にフィリピンから倉吉市にやってきた中井メリグレースさんは、「日本語は話せるけど書くのが難しい。子育てと仕事で忙しくてずっと勉強もできなかった。ここはベースを合わせて教えてくれてとても助かる」と話し、中井さんに誘われて入った同僚の山根マルティーナさんは「職場で書類作

成や試験があるから、わかることやできることが増えていくのが嬉しい」と笑った。

誰でもいつでもきやすい場所

「はい、じゃあこれからみんなで七夕会をやりましょう」

この日は早めに日本語のレッスンを切り上げ、みんなで和菓子を作り、ソーメンを食べて和やかな時間を過ごした。別の日にはベトナム出身の方がベトナム料理をふるまったり、民族衣装を披露したりするなど、お互いの文化を体験することもやっている。

「日本語を教えるっていうよりも、ここに来る人がまた今度も行こうかなと感じてもらいたい。そういうつながりがここにあっていいと思うので、いろいろな話が一番ですね。なにげない話が

できれば暮らす中で困っていることを打ち明けられたりもできますから」(下吉さん)

鳥取を離れて県外に行ったり、帰国したりする人もいるが、リモート学習で教室を利用したり、自国に戻って日本語教室を開いてからも関係が続いたりする人も。「そういう関係がここから生まれることがとても嬉しい」と田村さんは笑顔を見せた。



倉吉市人権文化センター
下吉 真二 所長

田村 昭夫 事務局長

Toriフレンドnetwork (倉吉市人権文化センター内)

所在地/倉吉市鍛冶町1丁目2971-2
連絡先/電話:0858-22-4768 (FAX兼)
メール:jinkenbunka@ncn-k.net

共に働き、共に暮らす。 安心して暮らせるまちに。



「西部」境港市

年々、日本に住む外国人は増えていて、鳥取県でも令和6年12月末で過去最多の6,000人となった。住民の暮らしを守る行政の考え方や施策も自治体によってさまざまだが、漁業や水産加工業が盛んで多くの外国人労働者が生活をしている境港市は、外国人への積極的な支援やサービスを行っている。文化や習慣の違いも互いに理解しながら、働きやすく暮らしやすいまちづくりを目指した取り組みを取材した。

▲増加する外国人労働者

「人材不足を解消でき、外国人にとっても技術を習得して自国に帰って仕事に役立てられる。水産業の多くが働き手に困っているところを助けてもらっています」（本角さん）

企業の多くが労働力の確保に頭を悩ませる時代。そんな状況を救っているのが、外国人労働者の存在だ。今年5月末時点で、人口3万2,113人のうち外国人は682人。人口比率2・12%は県内で一番高い割合で、その多くが市内企業で働いているという。

境港市には外国人の国際交流員が2人いる。1993年に友好都市協定を結んだ中国の理春市から延べ22人の交流員を招いており、現在は戴宓宓さんが通訳や市民向けの中国語講座の講師を担当。また、外国人労働者が増えてきたことに対応し、4年前にベトナム人のダム・ゴック・クアンさんを交流員に迎えた。

「以前は中国からの技能実習生が多かったが、近年はベトナム人が急激に増えており、境港市にいる外国人の半数近く

（324人）はベトナム人なんです」（宮本さん）
クアンさんは、地域に住む外国人から寄せられる相談に対応し、支援に努めている。

▼市による外国人支援

「企業側からも『日本語を市内で勉強する場所がない』『日本の文化に接する機会がない』という声が多く寄せられるようになりました」（本角さん）

さまざまな国籍の人が増えれば、当然文化や習慣などに違いもある。多文化共生を進めるため、2019年から市直営の日本語教室を開設。年15回程度開き、多い時には20人が参加するという。また、技能実習生等を対象にした交流会を年2回開き、浴衣や着物の着付け、茶道体験、日本料理教室などを通

同課経済交流係（取材当時）
宮本 慎吾さん

同課国際交流員
ダム・ゴック・クアンさん

同課国際交流員
戴 宓宓さん

境港市 水産商工課 主査
兼 経済交流係長
本角 有希子さん



して、互いに理解を深めてきた。
 「最近では情報発信に力を入れて
 います。自分たちがよく相談
 されることや、外国人目線で暮
 らしの中で知りたいこと、市報
 に載った記事などから内容を考
 えて発信しています」（クアン
 さん）
 Facebookページ「外
 国人のためのさかいみなど
 ニューズ」では、漢字にふりが
 なをつけるなど簡単な日本語を
 使いながら、税金や給付金など
 暮らしに関わることを、日本語能
 力試験のことなどを発信してい
 る。当事者目線で分かりやすい
 内容が人気で、市外の外国人の
 閲覧も多いという。



4年間住んでいるクアンさ
 んも、この春から境港市にやっ
 てきた戴さんも、母国と日本
 の違いに戸惑ったところがあ
 るという。
 「ベトナムでは夜、家の外に
 出て話しながら過ごしたりす
 るのですが、ここでは近所迷惑に
 なるからそうもいかなかった
 り。知らないことで迷惑をかけ
 てしまうことがあるので、その
 辺をできるだけ共有したいです
 ね」（クアンさん）
 「中国では道端にゴミ箱があ
 るからそこに捨てるけど、日本
 は道端にゴミ箱がほとんどな
 く、持って帰ってちゃんと分類
 して捨てる。生活する上での
 ルールの違いを認識していくの
 が大切だと思いました」（戴さん）

理解し合って共に暮らす

多文化共生においては「互い
 のギャップを埋めていくのが大
 切」と本角さん。そのために、
 地域の人と外国人が接する機会
 をイベントなどを通して増やし
 ていきたいという。
 「最近ではベトナムの料理を食
 べてもらいたい、と言ってくれ
 る人がいて、イベントなどに出
 店するために、営業類似行為手
 続きや主催者となぐお手伝い
 をしています。同じ境港に住む
 人間。特別なことをしていると
 いうことではなく、日本人が
 普通に暮らすように、外国人の
 方も安心して生活できるように
 必要な情報を届けたりといった
 支援をしています」
 お互いが安心して暮らし、住
 みやすいまちへ。これからも共
 に生きるための接点を増やして
 いく。



**境港市 水産商工課
 経済交流係**

所在地／境港市上道町3000番地
 連絡先／電話：0859-47-1029
 メール：suisan@city.sakaiminato.lg.jp

Webサイト facebook





田後を「知りたい！」 田後を「知ってほしい！」

今回は、学校の探究学習の一環で、岩美町田後地区の魅力発信のプロジェクトを行っている、鳥取県立岩美高等学校「TAJIRI倶楽部」の皆さんにお話を聞きました。



「TAJIRI倶楽部」メンバー（順不同）

もり た はず み
森田 秀美さん
3年普通科探究類型

やま もと あい ら
山本 愛桜さん
3年普通科探究類型

ひら い そら
平井 空輝さん
3年普通科探究類型

ふじ た れ おん
藤田 礼温さん
3年普通科探究類型

Q1 | どのようなきっかけで「TAJIRI倶楽部」の活動がスタートしたのですか？

【平井さん】 探究授業の最初に岩美町の田後・浦富・岩井・東浜の4つの地域から活動エリアを選ぶことになっていました。これまで、浦富・岩井・東浜には行ったことがあったのですが、田後には行ったことが無かったのと、アニメ『Free!』を観て、その舞台となった田後地区を知りたいと思い選びました。

【森田さん】 私はアニメ『Free!』をまだ観てないのですが、興味があったので今回観るきっかけにしようと田後を選びました。

【山本さん】 他の地区より少子高齢化がすすんでいるという話があり、私たちが関わることで、少しでも盛り上げることができたらと思ったのが理由です。

【藤田さん】 高校に入るまでは、岩美町や田後のことをよく知りませんでした。港町であることや、アニメ『Free!』の舞台になっていることを聞いて興味を持ち、田後を選びました。



Q3 | 活動を通して何か気づきや学びはありましたか？

【平井さん】僕は初対面の人と話をするのは苦手でした。取材で人と話すことを通じて、苦手意識を少しは克服できた気がします。そういうところは自分でも成長できた部分だと思っています。

【山本さん】田後でのフィールドワークの中で、住民同士のあたたかいつながりに触れることができ、「なんか、いいなぁ」って感じました。

【森田さん】フリーペーパーを制作する中で、たくさんの人たちに関わってもらったのですが、連絡や調整など、予定通りにいかないこともあり、すごく難しかったです。でもこういったことも大事な力なのだと思います、メンバーのみんなと最後までやり切ることができて本当に良かったです。

【藤田さん】「TAJIRI倶楽部」のこの4人のメンバーで「TAJIRIN」を完成できたことが、僕の中では大切な経験となりました。



Q4 | 今後について

【山本さん】田後の納涼祭やイベントにボランティアとして参加したりして、これからも田後とつながっていきたくと思います。

【森田さん】「TAJIRI倶楽部」での活動を通して、計画性の大切さを感じました。今後は計画を立て、それを実践できる人になれるように頑張りたいと思います。

【平井さん】自分にやれることがもっとあったのではないかと感じています。だからこれからは、積極性を持って行動し、人の役に立ちたいです。

【藤田さん】自主的に活動できてないこともあったので、これからは自主的に動けることを少しでも増やしていきたいと思います。



Q2 | 「TAJIRI倶楽部」はどのような活動をしているのですか？

【森田さん】田後の魅力を紹介するローカルマガジン「TAJIRIN」を作っています。

【山本さん】田後の人たちや観光客にも気軽に手にとってもらいたいと思い、SNSなどではなく、フリーペーパーによる情報発信の方法を考えました。

【森田さん】みんなで役割分担をして制作しました。私は田後地区の見どころなどを紹介する「たじりマップ」を担当しました。元々絵を描くのは好きでしたが、そこに文字の大きさや色、レイアウトなど、どうやったら見やすいのかを考えながら作成するのが難しかったです。

【平井さん】僕は「田後港大漁感謝祭」の案内や「田後イカ祭り」に参加した様子の記事を担当しました。田後イカ祭りでは、実際にイカをさばいてみんなで食べました。

【山本さん】私は田後地区でよく食べられている料理や食材を紹介する「おすすめの田後飯」のコーナーを担当しました。地元の人にレシピを教えてもらったり、写真を提供してもらい記事にしました。

【藤田さん】田後の絶景おすすめスポットを紹介するコーナーを担当しました。実際にその場所にも行ってみました。

【森田さん】インタビューする中で、田後の方は方言を使う方もいらっしゃるの、最初は分からなくて、少し苦労しました。一番印象に残っているのはおばあちゃんたちの笑顔がすごくかわいかったことです。こっちまで気持ちがあたたかくなって、「ハッピーな気分になれる地域だなあ」って感じました。

他にもこれまで田後になかったものを、田後の人たちと一緒に作ろうと*風景印づくりに取り組んでいます。デザイン案を募集する案内を地域用と高校用でそれぞれ作って募集をしました。集まった風景印を田後にある簡易郵便局に提案して採用してもらいたいと考えています。

*風景印：郵便局の所在地にちなんだ風景や名所などが描かれた図柄が特徴の消印です。正式名称は「風景入通信日付印」と言います。





For Multicultural Symbiosis



編集後記

この夏、アート作品の整理を行うボランティアに参加した。一日で整理できたのは全作品の1パーセントにすぎなかったが、作品の鑑賞もしつつ、懐かしい人も再会した。これからも機会をとらえて様々な活動に参加し、ボランティアと出合いを楽しみたいと感じた一日だった。(小林 綾子)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs:持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)
2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標
169のターゲットで構成

当センターは、SDGsに取り組む個人、団体等の情報交換・発信の場となる、「とっとりSDGsプラットフォーム」の事務局として、SDGsを推進しています。



会員随時募集!



<https://sdgsnwt.jimdofree.com/>

てとり「てとり」はとっとり県民活動活性化センターの愛称です。

発行：公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター

発行人：毛利 葉
編集人：小林 綾子
取材・編集：藤田 和俊（合同会社僕ら）、石川 妃奈穂（公立鳥取環境大学）、寺坂 純子、
橋 善裕、池淵 菜美、谷 祐基、世瀬 あけみ、山部 さおり
写真：藤田 和俊（合同会社僕ら）
写真提供：公益財団法人鳥取県国際交流財団、多文化共生ネットワークinプラザ、
Toriフレンドnetwork倉吉日本語教室、境港市、鳥取県立岩美高等学校
デザイン：山本印刷株式会社



「てとり」
バックナンバー
はこちらから。

2025年10月6日発行(第23号)

お問合せ/公益財団法人 とっとり県民活動活性化センター URL <https://tottori-katsu.net/>
〒682-0023 鳥取県倉吉市山根557-1 パープルタウン2階
TEL 0858-24-6460 FAX 0858-24-6470 E-mail info@tottori-katsu.net